3 Rd.

JUN 2013

平成25年6月30日発行

Japan RACING PRESS

SUPER GT ROUND 3 SEPANG

Super GT Series 2013

GT

Round 3 SEPANG

6/15-16

2013AUTOBACS SUPER GT第3戦はセパン・インターナショナル・サーキット（マレーシア）で行われた。灼熱の太陽が照りつけるこの大会は暑さとの戦いでもある。第1戦はホンダHSVが第2戦ではレクサスが勝利を収めているだけに日産勢の巻き返しが期待され3大メーカー三つ巴の戦いが注目されている。

Y.Na

Special Text
島村元子

Photo
加藤智充
中村佳史

Special Thanks
中村佳史

Editor
吉川絢恵

Cover Photo
中村佳史

灼熱の南国ラウンドは3メーカーの三つ巴。

土曜日に行われた公式予選では今季初のポールポジションを奪ったのはカルソニックインパルGT-R。2番手にはZENTセルモSC430がつけ、3番手にはキーパートムスSC430、4番手にデンソーコベルコSC430が続き何と5番手までがブリジストン勢の5台が独占した。暑さに強いミュシュラン勢はレイトモーラGT-Rが辛うじて6番手につけた。決勝日の日曜はやや日差しが強くなり、フリー走行でもミュシュラン勢が好タイムを叩き出した。

GT500 決勝結果

優勝	No.12	カルソニックIMPUL GT-R	松田次生／ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ
2位	No.39	DENSO KOBELCO SC430	脇阪寿一／石浦宏明
3位	No.100	RAYBRIG HSV-010	伊沢拓也／小暮卓史
4位	No.18	ウイダー モデューロ HSV-010	山本尚貴／フレデリック・マコヴィッキィ
5位	No.17	KEIHIN HSV-010	塚越広大／金石年弘
6位	No.1	REITO MOLA GT-R	本山　哲／関口 雄飛
7位	No.6	ENEOS SUSTINA SC430	大嶋和也／国峰資
8位	No.8	ARTA HSV-010	ラルフ・ファーマン／松浦孝亮
9位	No.23	MOTUL AUTECH GT-R	柳田真孝／ロニー・クインタレッリ
10位	No.37	KeePer TOM'S SC430	伊藤大輔／アンドレア・カルダレッリ

Y.Na

Y.Na

GT-Rは今季初優勝!
ウイダーは不運に泣く!

迎えた午後4時の決勝は毎年恒例の猛暑を避けてのスタート。暑さに強いミシュランを抑えてカルソニックインパルＧＴ-Ｒが好スタート。予選8番手のウィダーＨＳＶは大きく順位を上げ2位まで浮上し、その後も激しい攻めの走りでカルソニックインパルをオーバーテイクしてトップを奪う。しかしウィダーはドライバー交代のピットインでうまくスタートが切れずにトップの座を明渡し8番手に後退。この不運によってカルソニックインパルGT-Rはトップに返り咲く。追い上げる脇阪寿一のデンソーＳＣ、小暮卓史のレイブリックを抑え灼熱のセパンでGT-Rが逃げ切って今季初の優勝。4番手争いはファイナルラップまで続きウィダーHSVがKeeper SCと争そい4位でフィニッシュ。

GT500

T.Ka

2nd
Y.Na
3rd
T.Ka
T.Ka
GT500
Y.Na

ハイブリッド車（CR-Z）が予選から大バトル！オートバックスCR-Zが初優勝！

GT300クラスは予選からCR-Z同士の激しいバトルが展開され、ポールポジションはARTA CR-Z GTが獲得。決勝でもこの2台によるバトルは変らず逃げる55号車ARTAを16号車無限が追う展開。先にピットインした無難にピットアウトしたが、ARTAはピット作業に手間取りその結果順位が逆転。しかし終盤にARTAは無限を捉え再びトップに浮上。ARTA　CR-Zをドライブする小林崇志はそのままチェッカーを受け今シーズンCR-Zの初優勝となった。

GT300 決勝結果

優勝	No.55	ARTA CR-Z GT	高木真一／小林崇志
2位	No.16	MUGEN CR-Z GT	武藤英紀／中山友貴
3位	No.11	GAINER DIXCEL SLS	平中克幸／ビヨン・ビルドハイム
4位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	山野哲也／佐々木孝太
5位	No.88	マネパ ランボルギーニ GT3	織戸 学／青木孝行
6位	No.4	GSR 初音ミク BMW	谷口信輝／片岡龍也
7位	No.10	GAINER Rn-SPORTS DIXCEL SLS	田中哲也／植田正幸
8位	No.62	LEON SLS	黒澤治樹／黒澤 翼
9位	No.86	クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3	山西康司／細川慎弥
10位	No.3	S Road NDDP GT-R	星野一樹／佐々木大樹

GT300

THE WINNER

CLOSE-UP

No.12 CALSONIC IMPUL GT-R

Text by Motoko Shimamura

Photo: Yoshifumi Nakamura / Tomomitsu Kato

元祖日本一速い男、星野一義が率いるカルソニックブルーが今季初勝利を果たす

元祖日本一速い男、燃える闘将などというキャッチフレーズでおなじみといえば、元レーシングドライバーの星野一義。その彼がチームオーナーであり、また監督を務めるTEAM IMPULは、星野自身が現役ドライバーの時代から「カルソニック」がスポンサードするブルーのカラーリングマシンでも知られるチームだ。

チームドライバーの技巧派ドライバーとして知られる松田次生とアグレッシブな走りが真骨頂ともいえるブラジル人のジョアオ・パオロ・デ・オリベイラがこのチームでコンビを組んだ2010年からは毎シーズン必ず勝利しており、加えて、このセパン戦は彼らがコンビとして初勝利した場所でもあるだけに、今大会でも好成績ゲットに期待がかかることとなった。

薄曇りの予選で、チームはポールポジションを獲得し、願ってもないスタートダッシュを決める。翌日の決勝でも安定した速さでトップを快走する12号車カルソニックIMPUL GT-R。後続の車両が接触などのトラブルでポジションを落とす中、トラブルフリーで順調な走り出しを見せていたのだが、そこに徐々にペースアップしてきた18号車のHSV-010が立ちはだかった。

しかし、また12号車にはチャンスが残っていた。ルーティンのピットワークで18号車にミスが発生。大幅に出遅れたのを機に12号車が再びトップへと返り咲いた。これで一気に勢いづいた12号車は、レース後半に入るとますますパワーアップ。後続の猛追を完全にシャットアウトし、そのままチェッカードフラッグを受けた。12号車は今シーズン初勝利と同時に、シーズンにおけるGT-R勢の初優勝を果たすことになった。

Special Eye

Photo by: **Yoshifumi Nakamura**